

Goalタスク前後に取り入れたい リーディング指導



鈴木 祐一
(神奈川大学)

内容解説資料は
こちらから
ご覧いただけます



Goalタスクを目指す前に準備運動をしっかり行おう

Goal Activity [Read]の要は、メインタスクの“Goal”を目指したリーディング指導だ。補助タスクの“Guide”に取り組みさせることで、Goalを達成しやすくしている。しかし、いくらGuideがあっても、Goalを自力でできる生徒はなかなか多くないかもしれない。そこで、今回は生徒が自力でGoalを目指す一つの指導法を提案する。

メインタスクのGoalは、少し困難な（でもがんばれば目指せる）山の登頂を目指すようなものだ。平地のハイキングとは異なり、山頂を目指すには、適切な準備運動が必要である。

準備運動①：背景となる題材を導入する

まず、英文を読み始める前に、挿絵を見せながら、田村さんの生い立ちに関わる発問をしよう。

- What is he holding in his hands?
- Do you think that he likes bread?
- What did he like when he was a child?



この発問の答えは、実はGuide 1「どんなできごとがあったかを考えながら、時を表す表現に下線を引こう。」に関連するため、読む前に問うことで、時を表す表現に着目しやすくなる。また、このGuide

準備運動②：Sceneで扱った表現を再確認する

後半部に入る。まず、Guide 3にあるように、田村さんが日本に帰ってきてからパン店を引き継いで、直面した問題を整理する。そして、彼がどのような解決策を考えたかを生徒に自力で読み取らせたい。

ここでのキーワードは、“leftover（売れ残った商品）”である。実はこの「leftover問題」は、Part 2 Scene 2で取り上げている。そのため、Scene 2の挿絵を見せ、花たちがパン店で働く由香さんから、どんな話を聞いたかふり返ることが効果的だ。例えば、Do you remember that Hana visited a bakery? A bakery shop worker, Yuka, shared her problem at her shop. What was the problem?などと発問しながら、内容をふり返るとよい。

Part 2 Scene 2の内容をふり返るということは、leftoverという単語の意味を忘れてしまっている生徒にとって表現の復習になる。また、後半の英文にある他のキーワード(bakery, bread, waste)も、Sceneのストーリーの中で再確認できる。このような表現の確認をせ

今回紹介するGoal Activity [Read]は、2年 Lesson 3 “As We Grow, Dreams Change”である。英文を読む練習はScene 2の本文などで積み重ねているものの、生徒にとっては、1年生の最後の英文(141語)から一気に語数が増えた223語の英文を読むことになる。ここで挫折を感じさせずに英文を読み、メインタスクができたという達成感を味わわせたい。そこで、今回は田村さんのパン店を引き継ぐ前までの生い立ち(前半部)と、パン店での取り組み(後半部)に分けて、まずは準備運動をする方法を紹介する。

1をGoalのあとに扱えば、再度読み直す中で、時を表す表現を追うと、概要をとらえやすくなることに気づかせることができる。

そして、After he graduated from university, he did not become a baker. He went to Mongolia. Please guess his job.と、次の発問をしてから、前半部を読ませるとよい。モンゴルでの話に少しふれたあと、Guide 2「田村さんがモンゴルで感銘を受けたことは何ですか。」につなげると、前半の英文がぐんと読みやすくなるだろう。

ずに、いきなり読ませてサッパリわからないという生徒が出ないようにしたい。そう、準備運動なしで、ゴールを目指して、怪我をさせてしまっ

てはいけないのだ。
Scene 2のふり返りでは、“How many kinds of bread does Yuka bake at her shop?”などと「何種類のパンを焼いていたか」を確認すると、Readの本文についても、“How many kinds of bread does Mr. Tamura bake?”や“What kind of problem did Mr. Tamura find with his parents' bakery?”といった自然なつながりを持たせた発問ができる。つまり、Scene 2のふり返りから、「田村さんのパン店の抱える問題は何か捉える」という読む目的を設定して、後半部のリーディングに入れる。これにより、「環境問題に取り組むため、数種類しかパンを焼かない方針にした」という重要ポイントを生徒が自ら読み取るように仕向けるのである。

Goalタスクに取り組んだ後には「整理」運動も

さて、このように準備運動をしながらGuide 1からGuide 3に取り組みせれば、メインタスクのGoalを達成しやすくなっているはずだ。生徒たちがGoalを達成し、山頂に登りきったあと、無事に下山する

整理運動①：ターゲット文法に注目する

本レッスンのターゲット文法である「不定詞」は、読む前に教えるよりも、読んだあとに丁寧に確認すると効果的だ。英語が苦手な生徒にとっては、全体の英文を理解したあとの方が、文法の形式と意味を確認しやすいからである。

英文の中に不定詞がたくさん使われているが、特に読解が難しい5段落めは丁寧な説明が必要だろう。1文めは、... started to make ... to bake ... と2つの不定詞句が並列されていて、「田村さんが始めた取

ための「整理」運動をいくつか提案する。必死になって登っている時には気づかなかった文法や表現の働きについて「整理」してあげると、登山中には見えなかった景色がよりはっきり見えるようになる。

り組み」にふれている。また、2文めもvisitedにlocal restaurants and shopsという長い目的語があり、その後ろに不定詞句で「目的」が示されている。

Mr. Tamura started to make only a few kinds of bread and to bake less of it. When he had leftovers, he visited local restaurants and shops to sell the last few loaves. That way, he sold every loaf.

整理運動②：どのような表現がSceneからくり返されているか探す

Part 2 Scene 2で使われている表現が、Goal Activity [Read]でもくり返し出てくるためGoal Activity [Read]を読んで、どのような表現が前のSceneからくり返し出てきているかを探す活動を行うとよいだろう。実は、leftovers, bakeryなどの単語に加えて、that wayも副詞的に「そうすれば」という意味でくり返し使われている。例えばScene 2では、My bakery provides twenty kinds of bread.

I bake them several times a day. That way, even when customers come late, they have plenty of choices.と、「たくさんの種類のパンを1日に何度も焼く理由」が説明されている。これを踏まえて、Goal Activityでは何を表しているかを確認させる。Sceneで学んだ表現が、新しい文章・文脈でどのように使われているかを生徒に探させる活動は、表現の記憶定着に効果的だ。

整理運動③：単語・チャンクカードを作る

Goalを達成することに精一杯だった生徒たちに、単語・チャンク表現を整理する時間をしっかりと取ってあげたい。単語カードを作って覚える練習をすることは、長期記憶に留めるには有効だということが第二言語習得研究でもわかっている。ただ、どの単語を選ぶかは、丁寧な指導が必要だ。例えば、本文の単語欄に掲載されている太字

の英単語は、発信できることを目指す重要表現のため、優先すべきだろう。その際、bake breadやdecide toのように、意味のまとまり(チャンク)で覚えることで発信する時に使いやすくなることも伝える。本レッスンのあとにあるFor Self-study 2「使える単語を増やそう」をあわせて確認するとよい。

整理運動だけでは物足りない時は・・・

言語表現の整理だけでは物足りず、リーディングから発表活動につなげなければ、次のような要約・スピーキング活動ができるだろう。Scene 2では「売れ残り」問題について悩んでいた由香さんに、田村さんの取り組みを要約して伝える目的・場面・状況を設定する。

メインタスクのGoalでは、主語が“I”で書かれているが、Mr. Tamura (he)に変えたり、本文を再読しながら要約をまとめさせたりすると、リーディングからライティング・スピーキング活動につなげやすいだろう。

魚も釣り方も

中国春秋時代の哲学者である老子のもと伝えられる言葉に、「授人以魚 不如授人以漁」(Don't give them a fish, teach them how to fish.)というものがあります。魚を与えるか、釣り方を教えるか。悩ましい問題です。でも、私はこの2択に与しません。今を生きるために魚も必要ですし、これからの生活のために釣り方を学ぶことも大切です。この両者があってはじめて、生きていけるのです。昨今、**学び方が大切**とよく言われます。もちろんそうなのですが、**中身も大切**であるということは言うまでもありません。この両者が調和してこそ、学びが成り立つのです。そんな観点から、新しいNEW CROWNを手にとつて眺めてみてください。**中身と方法の調和**を、その中に見て取って頂ければ、これに勝る喜びはありません。



竹内 理
(関西大学)

NEW CROWNとわたし